

第7期第1回あま市まちづくり委員会 会議録要旨

と き 令和6年6月28日（金）

午後2時00分～午後3時30分

ところ あま市役所 2階 C1－3会議室

1. 出席者等

委員	11名
事務局	6名
傍聴人	0名

2. 市長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 自己紹介（活動歴など）

5. 委員長選出及び副委員長の指名

委員の互選により、横山委員が委員長に就任。

横山委員の指名により、小林委員が副委員長に就任。

6. アイスブレイク

7. 議題

第7期あま市まちづくり委員会の調査・審議内容について

○事務局

資料3から資料5について説明。

○委員

資料の提言書とは、前期委員会の成果物のことで間違いないか。

○事務局

間違いない。

○委員

シビックプライドについて、取りまとめた後に、どこを目指すイメージなのか。

○事務局

シビックプライドについてアンケートを実施し、本市に対してシビックプライドを感じている割合が増える方法やどのような発信方法が効果的か議論できるとよい。

○委員

市に対してプライド持っている人の特徴をまとめる。

可視化できるといい。

○事務局

シビックプライドに関する数値を図るための質問や表現を含めて、どのようなアンケートにするか。

また、こういった掘り下げ方をしていくと可視化できるか、委員の皆さんで議論いただければと考えている。

○委員

都市に対する誇りが、一般的に言われるシビックプライドであって、私たちが議論をするのは、あま市におけるシビックプライドとは何かを考えるということで大丈夫か。

○事務局

本委員会の最終回で、調査・審議していただいた結果、あま市のシビックプライドの定義づけのようなもの。

○委員

シビックプライドに関する調査、意識調査は何回実施したのか。

○事務局

昨年度の市民活動祭（あまのわ）で実施した。

来場者約3,600人中、約400人が回答。

約50%方がシビックプライドを感じ、本市のことが好きと書いている。

また昨年度の末、市民活動センターに登録してある市民活動団体に対して、同様の項目でアンケートを実施した結果、シビックプライドを感じている方が約7割を超える結果となった。

まちに対して誇りや愛着を持っている方が、比較的まちづくりの分野や地域の課題解決に対して取り組んでいる。

○委員

何に対して愛着や誇りを持っているか、踏み込んでいるのか。

○事務局

歴史、マーケットイベント、夏まつりなど。

○委員

意見が多かったのは、何に対してか。

○事務局

地域の人柄に対してが多かった。

詳細については、次回の委員会で資料提供する。

○委員

先ほどの説明にあった50%と70%を、100%にしたいということか。

○事務局

数値も重要だが、毎年行われているあまつりや市民活動祭（あまのわ）に参加

することで、シビックプライドが高くなり、前年度より向上していくような内容。

まちを好きになってくれる人が増えるような取り組みが実施できるように今期のテーマとしている。

○委員

あまつりや市民活動祭（あまのわ）に来た４００人に聞いた結果か。

○事務局

市民活動祭（あまのわ）に来た４００人に聞いた結果。

○委員

少なからず、市民活動祭（あまのわ）の来場者は、まちに対する関心が高いと思う。

８～９０，０００人の人口規模で、市長が目指すところはどこか。

何か市に関わっている人の中でシビックプライドを広めたいのか、それとも一般に広げたいのか。

○事務局

対象としては、市民全体。

定期的な住民意識調査の実施は難しい。

令和４年度からの１０年間が計画期間である第二次総合計画を作る際、令和３年度に市民３，０００人を無作為抽出して市民アンケートを実施した。

その中の１つの項目で、シビックプライドに類似する「市に愛着や誇りを持っていますか」という項目があった。

結果としては、「持っている」、「どちらかといえれば持っている」が６割近く。

逆に言うと、３割ちょっとの方が、誇りを持っていない。

少しでもよくしていきたい。

今年度に見直すことになっており、市民アンケートを実施する予定です。

その結果で、シビックプライド・誇りについて、数値が良くなっていることが理想。

○委員

３，０００人に対する調査の機会を、視野に入れるということか。

○事務局

その通り。

○委員

総合計画の委員として参加していたが、アンケートのデータでは確か３，０００の抽出で、若手の方がほとんど市民活動にあんまり参加したくないみたいなデータあった。

ほぼゼロに近い数字が出ていた。

しかしその当時、本委員会の若者と同じぐらいの世代が、あま市の中で新しい活動を始めていた。

現実に関心がゼロということはないと思った経験がある。

調査は、どこを拾うかによって限界もあるが、数字的な話だけじゃなくて、どこで拾うかもあると思う。

全市的に、どのようにシビックプライド広めていくかが大事。

○委員

3, 000人というのは、回答者が3, 000人なのか、それともアンケートを送った数が3, 000なのか。

○事務局

郵送数が3, 000。

先ほどの「誇りや愛着を持っていますか」という項目に限っては、有効回答数でいうと、1, 176。

○委員

多いですね。

○事務局

信頼できる数値だと判断しております。

○委員

若手の意見も聞いてみましょう。

○委員

アンケートについて、若い子たちはあまり興味がない。

市に関わることやボランティアをするということは、若い子からすると、あんまり時間がなかったり、中学生3年生だと受験に対して有効だったり、高校生も受験に対して有効だったりすることが多い。

そういうことに対するボランティアは、まちに対して誇りを持っているかというのはある。

中学校では、市の説明を聞く授業があるが、そういうところで少しは市に関わっているのかなと感じることはあった。

しかしアンケートに結び付くかという、アンケートをとる場所によって偏ると思う。

○委員

よく受験に有利だからと、ボランティアするという話は聞く。

私は、入口はそこでもいいと思っている。

やってみて楽しいとか、すごく人の役に立って嬉しいなという気持ちがあれば、受験とか関係なく、そういった機会があったときに、ボランティアに参加することが増えていくのではないかな。

今後議論を進めていくことで、ボランティアをやりたい人が増えていく。

まちに関わる方を増やしていくことが、ゆくゆくはシビックプライドを向上させるということに繋がっていくと思う。

○委員

私は、あま市にきてまだ13年。

あま市の特徴で、何かやっている方はすごく元気。

そのような活動に参加してないあま市の人たちは、いい意味で色々なことに興味で参加される方が多いと思う。

とても驚いた。

天皇陛下が来られたら、道いっぱいには並ばれるし、市民活動祭（あまのわ）などのイベントでは、本当に来場の方が多い。

私は岡崎で育ったが、なかなか分散している。

何かあるときに、あれだけの人たちが、老若男女集まれることはなかなか無いと思う。私は感動している。

ただ、当事者意識があるかという点、そうではない可能性があり、課題になる。

○委員

清須市など近隣の色々な場所に行き、他の団体と話をする、「あま市っていいね」とよく言われる。

「あま市は様々な団体がいるが、私たちは自分たちでやるしかない」という話を聞いたこともある。

また「あま市は、各団体さん同士が繋がっていて、市民活動センターがしっかり繋げる役目をしている。」とよく言われる。

私は、市内の状況を詳しく知らなかったが、他の委員さんが言っていたことと同じ思いかもしれない。

やりたいと思う人で時間のある人、余裕のある人が、もっといると思う。

若い子でもいるだろうし、主婦でも。

本当に忙しい人は、いいと思う。

お祭りへ参加でもいいし、くすぶっているママとか若い子とか、お年の方とか、なんか専門職の方とか、少し時間があって何かやりたいなという人。

ボランティアを本当はやりたいけど、1歩が出ない人はたくさんいると思う。

そのような人たちのきっかけになるような発信とか、参加しやすい多種多様な機会があって、選んでいける環境があるといい。

○委員

まず、シビックプライドという言葉がわかった。

このシビックプライドのアンケート取るにしても、意味がわからないとピント外れになる。

まずは、このシビックプライドという言葉に浸透させていかないといけないと感じている。

シビックプライド、市民としての誇りや愛着を持たせるっていうのは、ボランティアをたくさん作りたいということか。

ボランティアというか、動く人をたくさん作ってということか。

○事務局

誇りに思っている市民の方が増えると、ボランティアに参加される方も増えると考えている。

結果としてボランティアが増えていくといいと思うが、活動や参加はできなくても、誇りに思っている方が増えることを望んでいる。

○委員

そうすると、あま市の良いところを知っていくとか、そういうことになる。

アプローチが少し違うと思っていて、参加して良さを感じるというプライドと、参加はできないけど、例えば受験生、受験生でも美和図書館のほうで勉強しているとか、ああいうところの施設がものすごく充実とかしていたら、学生として、あま市すごい

などかと思う。

学生だが学業を置いて、暇の時間に何かあま市のためにやらなきゃいけないとなると、すごく大変だと思う。

自分が中学校の受験しているときに、すごく綺麗なところでできたとか、そういった中学生なら中学生なりの市との接点とかあると思う。

高校生なら高校生の接点。

それを抜かして、その人たちが自分達の本業を置いて、そのボランティアっていうのは無理な気がする。

提供する場を充実させていくことが、市との接点だと思います。

○委員

両方とも必要だと思っている。

本当に関わっていいと思っている方も増やしたい。

いい仕組みがあるとか、いい施設があるとか、そういった面から、あま市をすごいと思う人を増やすことも大事。

様々な面から、シビックプライドを押し上げてくような、イメージがいいと思う。

仕事も忙しいのに、ボランティアもやってほしいというわけではなく、少しくずぶっているような人に参加してもらえそうなことも必要。

本当に忙しい方だったら、利用する側で誇りを持ってもらう方法もある。

人や環境は様々なので、その人にとってあま市が、誇れるようなものになるということが、私たちで目指していきたいと考えている。

○委員

身近にいた学生さんの声を聴いていると、もともとまちに興味がない方だが、やっていくうちに、どんどんあま市が好きになり、何か手伝いをしたくなったと言っていた。

その後、ボランティアに参加していく方もいれば、あま市が大好きだから、あま市のために何かできることがないかと探してくる方もいる。

様々な窓口があって、色々なきっかけで、まちに参加することになったが、参加してみると、貢献できたという体験が大切。

自分が変わっていけるかもしれないという感覚や何かしらきっかけがあれば、興味を持てるのかなと思う。

最初は興味を持つところからだと思う。

皆さんに知ってもらうチャンスとか機会を、ここで皆さんにいろんな意見を出し合って、そこからスタートだと思う。

名古屋市の横でコンパクトなまちだと思うので、皆さんと共有することがしやすいと思う。

○委員

50年以上住んでいるが、新しい家がたくさん建って、新しい市民の方が増えてきている。

古くからいる人達が、新しく入ってくる人達と関わりが持てるようになるといい。

例えば、市でイベントを開催すると、子供が小さいときは一緒に行こうかとなる。

また、市に楽しませてもらった経験があると、今度は自分たちがまちに関われるようなことをしていこうと考えるかもしれない。

まち全体が盛り上がっていくことは、仲良くなれる、輪が広がっていくイメージで

ある。

自分もやってみたいという人が出てくると、もっと広がっていく。

○委員

イベント事業で実証実験もできるようなので、皆さんで盛り上がるような方法を考えましょう。

○委員

最終的に、その調査で意識が高くなればいいなということか。

各所属の団体が、一般市民の方々の意識を高めていく何かを実際にやっていく認識でいいのか。

何かを、この委員会の中でやるのか。

○委員

最終的に、我々が直接何かをやるわけではないと思う。

市民の意識を高めることが目的ということで間違いないか。

誇りや愛着という話もあったが、あま市は合併して13年、4年ぐらいで、近隣の地域に比べると歴史が浅い。

旧三町単位であれば、それなりに古い歴史がある。

観光協会として関わる身としての意見として、郷土愛ではないが、観光資源を市内の人だけじゃなくて市外の方という活動をしている中で、パンチがあるものが少ない。

観光資源だとか、市にある産業だとか、そういったものは、少し弱いところがある。

割と新しい市なので、市民の方が誇りを持てるようなものを、古いものではなくて、新しく創出していくという議論もしている。

まちづくりの分野で各団体として関わる方を増やして、意識を高めていく事が目的か。

○事務局

最終的には、委員の発言のようになることが理想。

各団体の皆さんがやってみたいことや、やったら面白くなることなどの発想に繋がると良い企画や活動が増えると良い。

その企画による影響で、まちのことを好きな人が増えるような議論をしていただけると良い。

この場で議論し、本市で発信をしていく。

市民活動センター登録団体には、市民活動センターからほうから発信する。

一般の方向けには、あまつりや市民活動祭（あまのわ）で発信していくことによって、市民に広がっていく事を期待している。

○委員

観光協会として、あまつりも広く関わっている。

そういった意味では、市民の意識を高める、愛着を持たせる誇りを持たせるということに、非常に重要な組織であると再確認した。

○委員

今、発言のあった委員の話について、本委員会は何がどこまでできる委員会なのか

話題にはなることが多い。

あくまで諮問委員会。

市長がシビックプライドに関する数値を上げたいということに対して、このようにしたらいいのではないかと提言を上げるところが最低限のライン。

まちづくりの土台の部分を作るということが、委員会のやるべきことだと考える。

シビックプライドを考える際に、どういう人がいるか知る事は重要である。

様々な要素を整理しないと、一概に愛着や誇りと言えないと思った。